

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

②施設・事業所情報

名称：太陽の子桜台第二保育園	種別：保育所
代表者氏名：園長 野尻 雅志	定員（利用人数）： 66 名
所在地：〒227-0061 神奈川県横浜市青葉区桜台27-16	
TEL：045-509-1271	ホームページ： https://www.kidslife-nursery.com/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2017年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：HITOWAキッズライフ株式会社	
職員数	常勤職員： 17名 非常勤職員 7名
専門職員	看護師 1名 栄養士 1名
	調理師 1名
施設・設備 の概要	（居室数）
	（設備等）
	乳児室・ほふく室2室・保育室 2室・調理室・事務所兼医務室・ 調乳室・沐浴室・トイレ2
	園庭 166.32㎡・駐輪スペース・バ リアフリー・廊下と玄関にエアコン完 備

③理念・基本方針

太陽の子保育園

保育理念

～のびのび、すくすく、にこにこ～

子どもたち一人ひとりがたくさんの“大好き”に出会えるよう、こころとからだをすこやかに育てゆきます。

保育方針

安心できる人間関係の中で、一人ひとりの違いを認めながら生活します。

整った保育環境の中で、仲間と喜びのある生活をし、自らルールを発見し社会性を育みます。

様々な経験や人との関わりの中で、自ら好きなものを発見し、健全な心身の発達を図ります。

いろいろな違いを体験する中で、広い視野をもった子どもを育てます。

④施設・事業所の特徴的な取組

・英語活動 ふぁんぱりん月2回 0～5歳児対象 英語に遊びながら異文化に触れる環境

・絵本活動 想像力を膨らませるための環境が大切

巡回としょかん 1か月半に5～60冊 テーマに沿った絵本が回り、新しい興味関心に繋がるための活動

貸し出し絵本 毎日園の絵本の貸し出しを行い絵本に触れるための活動

絵本と保育、絵本と給食といったコラボレーションした活動

<ul style="list-style-type: none"> ・食育活動 自然、本物に触れる環境 生活力の向上 文化に触れる環境 園内の畑で栽培活動（夏だけでなく冬場も行う） クッキング活動 行事食 郷土料理 世界の料理 ・地域活動 園外の人や物と出会う環境 園資源の地域還元 自治会、桜台保育園との合同地域清掃活動 地域向け身体測定 月1回 幼児クラスによる買い物活動 散歩に積極的に出ることによって挨拶を通して、地域とつながる 青葉桜太鼓との交流（コロナにて中止） ・Zoomによる個人面談や、発表会演目のリアルタイム配信を行い、今のコロナの状況にも柔軟に対応 ・2～4歳児の異年齢保育を行い、次年度の幼児クラスに向けて計画的に移行を活動を進めている ・手作り遊具の充実 子どもに合わせた木製遊具も作成 子どもに合わせた遊具環境

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年5月21日（契約日） ～ 2022年1月20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0回（ 年度）

⑥総評

<p>◇特に評価の高い点</p> <p>経営層は自らの役割と責任を職員に対して表明し園運営をリードしている</p> <p>開園から5年目、その役割と責任として「保育の質の向上」を掲げており、現場においては職員からの意見の把握や指導に努めている。保育方針についてはスタッフ会議や職員との個別面談で伝え理解を促している。また園長は保育士としての豊富な経験を有しており、保育士、栄養士、主任、クラス主任など職員それぞれの役割について個別の指導・助言に取り組んでいる。法人の園長会や地域の町内会などで把握した幅広い情報をもとに、今後の方向性を示唆し園運営をリードしている。</p> <p>子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している</p> <p>園庭、室内共に手作りの遊具や玩具が多くあり、各クラスにおいて絵本や玩具は手の届く高さに設置し、自分たちで選択して遊ぶことができるように配慮している。園庭では栽培や砂場・土場もあり日々の保育を通して自然に触れることができるよう整備しており、子どもが主体的に活動できる環境づくりに力を入れている。また、子ども一人ひとりに寄り添うことができるような時間設定を行いながら、年齢や発達に応じて子どもの生活と遊びが豊かになるような保育に取り組んでいる。</p> <p>子どもの興味関心が広がるような献立作成や栽培を通して食の大切さを体験する機会が多く設けられている</p> <p>・季節の行事に合わせたメニューや郷土料理、世界の料理、絵本の料理など子どもの興味関心が広がるような献立作成や栽培活動、クッキングなどの食育活動に力を入れて取り組んでおり、子どもが食を通じて命の大切さを知り、文化や伝統などにも触れることができるように援助している。コロナ禍においても出来ることに着目し、工夫しながら様々な食育活動を継続している。</p> <p>◇改善を求められる点</p>
--

スタッフの定着に向け、一人ひとりの意欲向上を目指している

スタッフ個々の経験、能力をもとに自己評価シートによって年度末に評価し、その評価を処遇に連動させる仕組みが整っている。また、シフト作成時には残業時間の管理や有給の取得状況の確認をしたり、月間の予定表や土曜勤務表を1年分用意して計画を立てやすくしたりしている。さらに、園長は現場をラウンドして職員の様子を確認し、声をかけをはじめ必要に応じて面談をするなど、悩みやストレスの軽減に努めている。職員一人ひとりの資質を向上させることを目的に、日頃より園長はコミュニケーションを図り、意欲の向上を目指している。

コロナ禍において可能な手段を利用しての小学校との連携を課題としている

年間カリキュラムに就学に向けての活動が計画されており、昼寝時間の調整など、子どもの様子を見ながら就学に向けて取り組んでいる。学校見学や地域交流で年長児の手紙交換や小学校の案内をしてもらうなどの取り組みを通して、生活の見通しや子ども同士の連携が図れるように援助している。

コロナ禍においては、様々な計画が中止であり小学校との連携がとりにくいため、可能な手段を利用しての連携を模索しており課題としている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の受診を通して園の運営、保育内容、保護者対応等様々なことの振り返りができ強み、弱みを確認することができた。

集計結果をもとに改善すべき点が明確になり、具体的に考え、取り組むきっかけになった。

保育園として今後もより良くなるためにスタッフ一同、前向きに取り組んで実践していく。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり